

## いじめ問題を考える！！

### 院長

最近、いじめが原因となる子どもたちの自殺が続いています。従来、教育現場はいじめを認めたくない傾向がありました。しかし、教育関係者の対応の問題などから、ここにきて学校(もちろん教育委員会や文部科学省)もいじめを認めるようになりました。

子どもたちの死亡の原因には様々な理由があります。2006年9月号の「リスクマネジメント」でも触れましたが、1～14歳では病気より不慮の事故で死亡する子どもが多いです。不慮の事故は予防可能と考えることが重要で、防止対策が必要と書きました。子どもたちの自殺は多いものではありませんが、予防可能であると言うよりもこれこそ防止しなければならないことなのです。そして自殺は子どもにとっても親にとっても、そして社会にとっても非常に痛ましい出来事なのです。

首相直属の教育再生会議では、「いじめ問題への緊急提言」を発表しました。「相次ぐいじめによる自殺を受け、いじめをした子どもに対する指導、懲戒の基準を明確にし、社会奉仕や別教室での教育など「毅然とした対応」を取るよう、学校に求めた。「いじめを見て見ぬふりをする者も加害者」との指導を学校が子どもに徹底することも促し、いじめに加担するだけでなく放置・助長した教員も懲戒処分の対象とすることを明記した(毎日新聞)。」

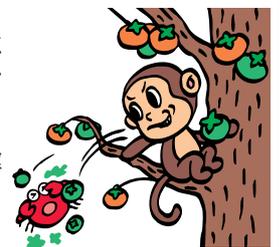
子どもたちに「いじめは悪いこと」と聞くと、悪いこと答えます。いじめが悪いことは、誰でも知っているのです。悪いことだと知っているのに、どうしていじめてしまうのでしょうか。人の心の中には、ストレス、欲求不満、劣等感など様々な意識が渦巻いています。心の中にある問題を解決する方法のひとつとして、いじめという行動が生まれると考えられています。自分でも悪いと知りながらいじめていることを無意識に隠すために、今度はいじめている相手を「いじめられて当然」と思い込んでしまうのです。人には様々な個性があることを認めず、皆と違うとい

う理由だけでいじめられていることが多々あるのです。また、いじめは一人だけでなく、まわりにいる子どもたちも巻き込みます。その子どもたちも「いじめは悪いこと」を理解しているのですが、自分がいじめられるかもしれないという思いから、

同じように「いじめられて当然」となる訳です。いじめられている子ども、次第に自分はいじめられても仕方がないと思うようになり、そのことがいじめに拍車がかかるという悪循環を形成してしまいます。集団の中で孤立することは、とても辛いことです。見て見ぬふりをしているクラスメートや先生の対応も、ますます孤独に拍車をかけ、本当に独りぼっちと考えるようになっていき、時には自らの命を絶つという行動に結びつくのです。親に話しても無駄、仕返しが怖いということだけでなく、助けを求めることによってかえって自分が惨めになることから、まわりに助けを求めようとしません。

いじめる側といじめられる側では、当然いじめる側が悪いのです。新聞を読んでいる親御さんの多くは、まだまだいじめとは縁遠い年齢です。しかし、将来的に、どちら側にも立たせたくないと思っているはずです。いじめは学校で起る問題ですが、その解決法はむしろ学校ではなく家庭にあると思っています。今までCLINIC NEWSには様々なことを書き、子どもは親の影響を大きく受けていること、子どもの心(とくに核となる部分)を育てる基本は家庭にあることを伝えてきました。親自信が様々な個性を持った人たちを認めるという姿を見せることも大切です。また、子ども達の心を強く育て、心の耐性を高めてあげることが重要なことだと考えています。そして、子どもの最後のより所は、学校でも社会でもなく、親であり家庭なのです。何かあれば、聞いてくれて守ってくれるのがお父さんやお母さんということを、今のうちから伝え続けてください。そして日頃から、お子さんとのコミュニケーションを大切にしてください。人と人とのコミュニケーションは多くのことを解決してくれるし、多くの問題を起こさずに済むものです。医療の世界も同じで、大切なことはコミュニケーションにつきますのです。

いじめを無くす方法がわかれば簡単ですが、なかなか困難です。いろいろな考えがありますが、紹介したら一冊の本になってしまいます。いじめに遭う年齢でなくても将来いじめる側いじめられる側にならないよう、親子のコミュニケーションについても考えてみましょう。



午後診療時間の変更  
月・土曜日の午後の診療(12月中)  
14:30⇒15:00となります。

- ・栄養育児相談  
毎週水曜日 13:30～  
栄養士担当 無料

12月のお知らせ

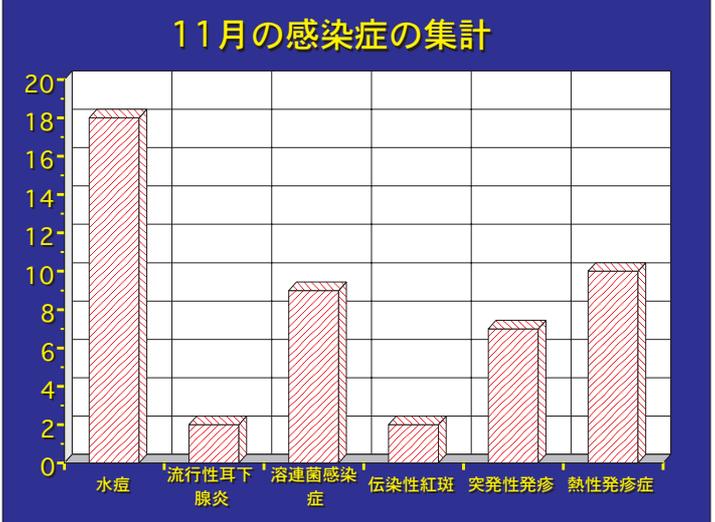
## 読者の広場

先月は16通のメールと1通の葉書を頂きました。まずは富谷町の矢萩さんからのメールです。以前は近くに住んでいたのですが、何かあると遠くから来てくれます。「先日は主人も見てくださいありがとうございました。真澄の行動に不穏を感じ飛んでかわむら先生のところでした。先生の本に書いてあった症状で「大丈夫！心配無いですよ」の言葉に救われた私達です。今までもそうでしたがなにかあった時はかわむら先生！そうなって10年になります。これからもどうぞよろしくお願い致します。先生、スタッフの皆さんもお体に気をつけてお仕事頑張ってください。では、また行きます(笑)」。また来て下さいとは言えませんが、大事なことは安心です。続いては1年振りに仙台に戻ってきたSさん(本人の希望で匿名とします)。「先日は息子がインフルエンザの予防接種でお世話になりました。川村先生はじめ看護婦さんの方、大変お忙しい毎日の事と存じます。そんななか、クリニック全体が(外も!)クリスマス至聖になっていて、とても驚きました。4才の息子も大喜びしていました。子供の為にお仕事をしているのにながれてしまうという、ご苦労が多いなか子供はじめ親までいやして下さい、本当に感謝の気持ちで一杯です。嬉しくて思わずお手紙にしました。年末に向けて、皆様が健康に笑顔で過ごされますように!!!」。ありがとうございます。わざわざ手紙にしたためてくれたこと、嬉しく思っています。皆さんもご承知の事と思いますが、今年からイルミネーションをはじめました。皆さんの気持ちを明るく、子ども達に喜んでもらえることを楽しみに飾りました。写真を掲載しますが、実物(16:00~22:00)は何倍も綺麗です。是非ご覧ください。



**予防接種のお知らせ** インフルエンザワクチンの接種を実施中です。13歳以上は原則1回、13歳未満は2回接種です。  
**料金(1回) 3150円(消費税込)**

**お母さんクラブの御案内** クリスマス会  
 12月14日(木) 14:00~ 福沢市民センター  
 今年も待ちに待ったクリスマス会です。今年はどんな出し物があるか、どんなプレゼントがあるか、楽しみです。クリスマス会は、会員のみ参加可能です。



一度減少した水痘が再び増加傾向です。おたふくは横ばい。溶連菌感染症は増加傾向です。診断はなかなか難しいのですが、マイコプラズマ肺炎が増加している情報があります。取材を受けましたが、インフルエンザは出ていません。

**年末年始休暇について**  
 12月30日(土)~1月4日(木)まで休診となります。  
 例年より1日長いのですが、院長は1月2日急患センター(河原町)の当番です。心配があればおいでください。尚、担当の医師が2人いますので指名して下さい。

**雑誌掲載のお知らせ①**  
 育児雑誌「はっぴーママ」に特集「カゼ&インフルエンザ撃退法」が掲載されます。「お母さんクラブ」が取材を受け、院長が監修しました。「はっぴーママ」は「未就学児の子どもを持つママのための情報誌。お出かけ情報から、育児・子どもの病気のことまで身近な話題が盛りだくさん!」。掲載号は12月20日(水)発売です。当院の活動も紹介されます。



**雑誌掲載のお知らせ②**  
 情報誌「仙台経済界」に院長の子育てに関する記事が掲載されます。12月28日発売の1-2月号特集「子どもマーケット」に記事が載る予定です。内容はいまいちはっきりしませんが、御主人が読んでいたら読んでみて下さい。

**テレビ放映のお知らせ**  
 11月末、取材にご協力を頂いたインフルエンザの話題が、12月1日(金) 東北放送のイブニングニュースTBCで放映されます。テーマは「インフルエンザ対策のポイント」で、18:15頃から放映の予定です。ご覧ください。

**編集後記**  
 いつの間にか、もう師走です。何と1年がたつのが早いのでしょうか。毎年12月の一面記事は今年を振り返ってですが、大きな問題を優先し新年号にしたいと思えます。ほんと忙しい1年を象徴するように、11月の週末の2回は東京、1回は大阪でした。土曜日16:00まで診療しているので、観光も無く毎回とんぼ返りです。



院長著書「小児科医がやさしく教える 赤ちゃん子どもの病気」の再版にご協力を。お陰様で再版の方向に! 詳しくは かわむらこどもクリニックHP(<http://www.kodomo-clinic.or.jp>)を